

中 守 破 離



令和7年3月11日（火）第31号

第78回呉市立仁方中学校卒業証書授与式 学校長 式辞

瀬戸内海と山々に囲まれた仁方の豊かな自然は、日に日に春の様相を見せています。茶色っぽく寂しげだった山は、少しずつ色づき、喜びや楽しさがあふれてくるような、まさに「山が笑う」季節へと移り変わっています。このような春の訪れは、卒業する皆さんの旅立ちを後押しし、新しい門出を祝っているようです。



このよき日に、御多用の中、呉市教育委員会 学校施設課課長補佐 原 健一郎様、仁方市民センター長 悦木 忠徳様を始め、御来賓の皆様に御臨席を賜り、第78回呉市立仁方中学校卒業証書授与式を挙行することができますことに感謝申し上げます。

また、卒業生を今日まで育て、支えてこられました保護者の皆様、御家族の皆様にも心からお祝いを申し上げますとともに、本校に対してのこれまでの御支援、御協力に対し深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。

9年間の義務教育を修了し、中学校の3年間で更にたくましく成長するとともに、それぞれの新しい道に進もうとしている皆さんを心から祝福します。

先程、卒業生の皆さん一人一人に、卒業証書を手渡しました。卒業証書の右上には、証書番号が書かれています。これは仁方中学校の第1回の卒業生からずっと繋がっている番号です。現在の仁方中学校は、昭和22年に開校し、昭和23年3月に第1回卒業証書授与式を行っています。それ以降、今年度の卒業生の皆さんを含めて、今日まで一万百九十二名の卒業生を送り出しています。その仁方中学校の歴史と伝統を皆さんは受け継いでいるのです。

次に、大きく「卒業証書」と書かれています。これは、中学校を卒業した証となります。そして、皆さんの名前が書かれてあり、世界であなただけの卒業証書ということです。更に、皆さんの誕生日が書かれてあります。この日に、皆さんは生まれ、今日まで生きてきたのです。皆さんの誕生日には、どんな出来事があったのでしょうか。どんな出来事があったとしても、家族や親戚の人たちは、皆さんが生まれたことを一番に喜んだ日なのです。そして、今日まで、沢山の人の面倒をみてもらったり、助けてもらったりして今日を迎えているのです。食べること、寝ること、病気になったときの看病、学校に行くための準備、学校の行事への参加やお手伝い、そして、中学校卒業後の進路に向けて、ずっと応援してくれたのです。感謝の気持ちを忘れないでください。



また、卒業証書の真ん中には、中学校の全て課程を修了したということが大きく書かれ、その日が令和7年3月8日と記されています。人生には、節目となる日があります。卒業や進学、就職など節目の日の気持ちを忘れず、これからも頑張ってもらいたいと願っています。

そして、卒業に当たり、ある言葉を送ります。それは、イギリスの自然科学者であり、「進化論」を発表したことで有名なチャールズ・ダーウィンの言葉です。

「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができる者は、変化できる者である。」生物は何万年、何億年という長い年月をかけて、周りの環境に合わせて体が進化し生き延びていますが、今の世界、社会は、変化のスピードが速く、激しく、予想せぬことも起こるなど、全く先が見えない状況です。だからこそ、柔軟に対応したり、考えたりしながら、前向きにポジティブにたくましく生きてほしいと願っています。期待しています。

最後になりますが、卒業生の皆さんは、仁方中学校の仲間や先生たちに支えられながら、本当によく頑張りました。互いにこの素晴らしい出会いに感謝し、将来の夢に向かって頑張ってください。これからも皆さんをずっと応援します。皆さんの前途が幸多いことを切に祈り、私の式辞といたします。

令和7年3月8日

呉市立仁方中学校長 柿林 浩彦